

(注) 大量情報を圧縮提供するため、「要約文書」を縮小しています。
読み難い場合、「拡大→読み易化」などの工夫が勧められます。

Simple, Quick & Easy Kaizen

改善実施講座



手間をかけず

カネをかけず

知恵を出して

手っとり早く改善実施



講師：東澤文二

hr-touzawa@nifty.com

【検索】→かいぜん touzawa

改善セミナー受講特典

ナニゴトもやりっ放しはダメ

改善セミナーも受講するだけではダメ

成果に直結→定着化→活性化させるため、
「受講者&受講会社」に次の特典を提供

1) 改善に関する質問

- ① 手っとり早い改善・実施ノウハウ
- ② シンプルな制度のしくみ&しかけ
- ③ 効果的な事例教材の作成→活用

2) 企業内改善研修の相談

- ① 日程調整→準備日程の提示
- ② 事前アンケート→事例教材の作成
- ③ 事例+定石+公式の映写→解説

3) 改善研修見本動画進呈

- ① 具体的事例による実際の研修見本
- ② 超圧縮→高速展開の収録動画

メール申込→hr-touzawa@nifty.com

(受講日&コースをお知らせください)

手っとり早い

改善実施ノウハウ

大袈裟 →

小袈裟化

全体対応 = 大袈裟 = ムダの元凶
力ネがかかる & 時間がかかる

小袈裟化するには

① 部分化 = 部分を攻める

② 分割化 = 分割して攻める

③ 局所化 = 限定して攻める

原因追及が甘い

大きな原因

大きな対策

大袈裟 = 力ネ & 手間がかかる
稟議や手続きが大変 → スグ、できない

原因追及が鋭い

小さな原因

小さな対策

核心的原因 → 核心的対策

手間をかけず、力ネをかけず
手っとり早く、即座に、改善実施

チャチなものほど良い改善

大袈裟 →

小袈裟化_の

改善実施順序

① 最初に

仕事のやり方の改善

作業改善 = やめる・減らす・カエル

② 次に

道具・工具・治具の改善

補助具活用 & 機能活用 = やり易化

③ 最後に

機械・設備・システムの改善

「マズい仕事」の「やり方」を、そのまま
「機械化・高速化・自動化」するべからず
「良いやり方」を「機械化・高速化・自動化」すべし

改善的原因追及法 ①②③

① 静的探査 = 観察

観測データの比較・分析

異なる時期・条件・状況の比較

定点観測 = 定期的観察

② 動的探査 = 実験

やってみる = 仮説 → 検証

試しに やってみる

試しに やめてみる

③ 観察と実験の

使い分け & 組み合わせ

全業種全職種全階層に

共通の3つのムダ

どんな仕事にも共通のムダがある。「忙しい」と言っている人は「3つのムダ」を毎日のように繰り返している。
これほどのムダをやっていると、忙しくなるだろう。そのようなムダから「手抜きする」が「改善的・手抜き」

さがす

- ① 探さナイ化、せめて探し易化すべし
- ② アチコチ→定置化 (置く場所を定めるべし)
- ③ 元に戻る化、せめて戻し易化すべし

迷う→間違える

- ① 迷うと間違える→訂正しなければならない。
- ② 迷わナイ化→間違えナイ化すべし
- ③ 似ナイ化＝区別&分別化・目立つ化

イチイチ・そのつど・ワザワザ

- ① 同じことの繰り返し＝反復のムダ
- ② あらかじめ (前もって・事前対応・先手対応)
- ③ 後始末 (手間かかる) → 前始末化すべし

3つのムダの退治法

① さがす

② 迷う→間違える

③ イチイチ・そのつど・ワザワザ

イライラ・バタバタ・ウンザリ

「ムダ退治」には、それぞれの「原因」に対応した「改善の定石&公式」が有効

アチコチ・バラバラ→

定置化・分別化・表示化・順番化
置くな→吊せ。立てよ・ボード化・番号化

似ている→似ない化 不明確→明確化

見える化・視覚化・顕在化
色分け化・強調化・目立つ化
良くわかる化・一目でわかる化
スグわかる化・誰でもわかる化
目印化・仕切り化・分離化・隔離化

後手対応→先手対応 複雑→単純化

あらかじめ・前もって・事前対応
すっきり化・シンプル化・整列化

「内段取り」→「外段取り化」せよ
「後・始末」→「前・始末化」せよ

手間をかけず力ネをかけず 知恵を出す改善の手っとり早い 実施のコツ

手っとり早い改善実施ノウハウは、

改善の方程式 + 定石 + 公式

に体系化されているが、その核心は次の3点

1) 分割化・部分化・細分化

- ①全体を全部、変えるは、**大変** (大きく変える)
- ②部分を少し変えるのなら、**小変** (小さく変える)
- ③問題を**分割**・細分化して、**部分**から攻める

2) とりあえずデキることから

- ①分割→**分別化**「デキること」↔「デキないこと」
- ②要素分解→分ければ、わかる
- ③分割対処→分ければ、デキる

3) デキないことは後回し

- ①着手の優先順位 = まず、**デキること**から
- ②「デキること」から着手→**改善能力の開発**
- ③状況**条件**は**変化**→デキるようになったら**実施**

手っとり早い改善実施の 方程式・定石・公式

典型的な問題→対応パターン

1) 改善の方程式 = 改善の構造

- ①改善 = 問題の裏返し (困る→困らない化)
- ②対策 = 原因の裏返し (似ている→似ない化)
- ③〇〇化するには → **なぜ** → **どうしたら**

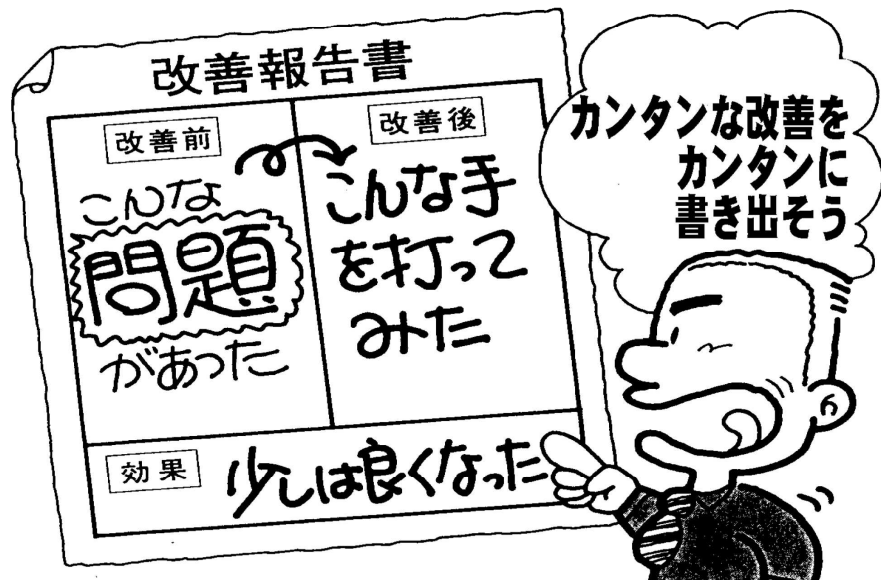
2) 改善の定石 = 具体的な変更 & 選択法

- ①〇〇化 = 見える化・透明化・傾け化・合体化・一覧化・定置化
 - ②〇〇活用 = 機能活用・補助具活用・制度 & サービス活用
 - ③改善力 = 事例 + 定石の蓄積量
- * 事例 + 定石 = 事例教材 → 改善力の指導開発
* 定石の詳細は「問題→対策のリスト」を参照

3) 改善の公式 = 典型的な解決パターン

- ①測定するな、判定せよ
- ②計数するな、判定せよ
- ③調整するな、設定せよ
- ④転記するな、転用せよ
- ⑤置くな、立てろ・吊せ
- ⑥後始末より、前始末せよ
- ⑦「支持・保持」は「支持具 & 保持具」で、手抜きせよ

手っとり早い 改善メモ記入法



- ① **3** 分以内で **手っとり早く**
- ② **30** 字ベスト → 最大 **100** 字以内
- ③ **要するに** — — で **要点** のみ

Quick & Easy Kaizen
改善の実施 → 顕在化 → 共有化

改善の定石の記入法

1) 記入の **位置** と記入すべき **内容**

- ① 「問題欄」に「問題の裏返し」を
- ② 「対策欄」に「原因の裏返し」を
- ③ 「効果欄」に「メリットの総括」を

改善とは①「問題」の裏返し ②「原因」の裏返し
③「改善者」にメリットをもたらすもの
「問題・対策欄&効果欄」に、「改善の定石・記入」で
「改善の構造」を「わかり易化」できる

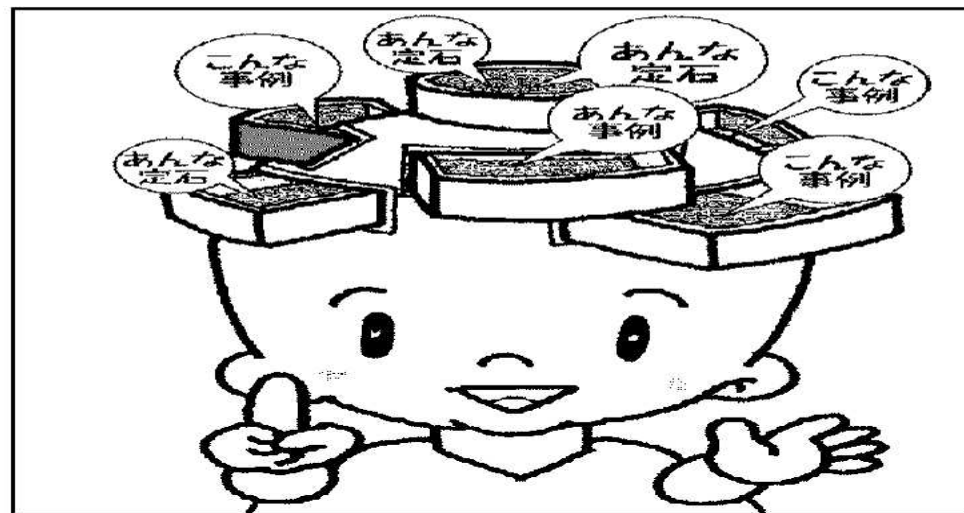
また、「問題&原因→裏返し」のパターンの蓄積で、
①問題に直面した瞬間に→「こうなれば、いい」
②原因が判明した瞬間に→「こうすれば、いい」
という「改善の反射神経」を養える。たとえば
*「時間がかかる」→「時間をかけない化」すればいい
*「複雑・煩雑」→「スッキリ化・簡素化」すればいい
【記入見本】

改善前 (問題点)	改善後 (対策)
〇〇を さがしていた。	置く場所を 決め表示した
「問題」の裏返し さがさない化	「原因」の裏返し 定置化→表示
原因： アチコチに置いている 使ったら、元に戻さない	
効果 すぐ取り出せるようになった	すぐできる化 効率的化 生産化
メリットの総括	

改善の定石（問題→対策）一覧

問題	対応（問題の裏返し）	原因	対策（原因の裏返し）
さがす	さがさない化 さがしやす化 スグ見つかる化	あちこち バラバラ 使い放し	定置化・分別＋表示 元に戻る化 検索機能活用
間違える	間違えナイ化 間違えられナイ化 間違いニク化 間違えテモ化	似ている 類似 混同・混在 転記	強調・目立つ化・目印化 色分け化・区別化 ポカよけ・フールプルーフ 転記するな、転用せよ
遅れる	遅れナイ化 遅れニク化 遅れテモ化	後手・受け身 グズグズ・ダラダラ 先延ばし	先手・能動・主導 とりあえず着手 スムーズ化・スマート化
忘れる	忘れナイ化 忘れニク化 忘れテモ化	後で そのうち 別々に	定期化・定時化・定例化 一体化・同時化・一括化 タイマー&アラーム活用
危ない	危なくナイ化 安全化 安心化	触れる 滑る 不備→不安	触れナイ化（カバー化） 滑らナイ化（滑り止め化） 予知・予測→予備・予防
わからナイ わかり難い 迷う	わかる化 わかりやす化 迷わない化	見えない 複雑・煩雑 不明確・あいまい	見える化・視覚化 シンプル化・カンタン化 ハッキリ化・明確化
できナイ やりニクイ 困難・不便	できる化・やりやす化 容易化・快適化 ラクちん化	複雑・煩雑 姿勢不自然 動作不自然	簡素化・簡略化 手順書化・順番化 屈まナイ化・捻らナイ化
イチイチ そのつど ワザワザ	あらかじめ 前もって 事前対応	事後対応 後・始末 内段取り	先手対応 前・始末化 外段取り化
ごちゃごちゃ グチャグチャ 乱雑・混乱	スッキリ化	いっしょくた 無分別 分散	分別・区別化 定置化・表示化 整列化・順番化
バラバラ バラツキ 不揃い	統一化 標準化 一元化	基準なし 別々に そのつど	定数化・定量化・基準化 測定するな判定せよ 調整するな、設定せよ
〇〇サンしか、 わからナイ できない	誰でも、デキル化 誰でも、ワカル化 新人でもデキル化	複雑・煩雑 カン・コツ 不共有	簡略化 マニュアル化 補助具活用・機能活用
ガンバリ ガマン 根性精神力	くふう 方法変更 手段選択	情性・前例固執 自虐 知的怠慢	情性脱却・前例打破 自尊 知的勤勉

改善力 & 改善指導力をつけるには 事例＋定石を100件蓄積



改善＝小変（小さく変える）には、特殊な能力は不要。
なぜなら、多数の改善がなされており、日常的な問題のほとんどは
解決済みという「改善の前例」が無数に存在しているからだ。

それらを**マネるパクる**のが最も手っとり早く、効果的。

ただし、「仕事の条件や状況」はそれぞれ異なるので、
他者の改善がそのまま使えるとは限らない。だが、

改善の定石を読み取れば、「自分の仕事」に応用できる。
「このような問題はこうすれば、解決できる」という
「問題→解決」のパターン（定石）が確立されている。

ただし、1~2件ではダメ。とりあえず10件、

そして、**100件の事例＋定石**の組み合わせが勧められる。

「アタマの引出し」に100件の「事例＋定石」の
蓄積があれば、たいていの問題は即座に改善できる。
それが改善力、あるいは改善指導力である。

やめた事例の効用

1) 改善を「アレコレ余計なことをやるもの」と誤解してしている人が多い。その誤解を解くには

やめた改善事例

① やめて良かった事例

② やめても問題ない事例
--の紹介→共有化が効果的

2) 「今までやってきたこと」をやめるには

やめる**勇気**が必要

やめた事例の共有化が

① **不要**やめる

② **ムダ**やめる

③ **惰性**やめる

やめる**勇気**をもたらす

やめるための3原則

① 事前に相談・連絡

「重要なこと」は勝手にやめてはならない。事前に、関係者に連絡・相談し、承諾・了承のうえ、「やめる」べし。

もちろん、「やめっ放し」はダメ。やめても問題がないか、確認・検証しなければならない。問題があれば、即座に対応。

② 事後に連絡・報告

やめても影響ないものは「自己の判断と責任」で、勝手に、やめても構わない。「やめっ放し」はダメ。混乱・不信感を防止するため、必ず、「事後報告・事後連絡」すべし。

③ そっとなめる・黙ってやめる

あきらかにムダ、不要なものはさっさとやめる。「やめっ放し」でいい。事前相談も事後連絡も不要。

「必要なもの」をやめた場合、即座に**反応**がある。その時のみ、対応すればいい。何も言っていない場合は、そのまま放置しておけばいい。(多くの場合、誰からも文句なし→「不要なこと」をやっていた)

◎ 「やめる改善」には**判断**が必要。自分で判断できなければ、上司に相談しなければならない。その過程を通じて、「判断力」が養成される。つまり、「改善＝能力開発」となる。

共有化すべきは改善の
定石・発想・原理・原則

考え方

共有化すべきは、改善事例そのものではなく、
「原理・原則・定石」である。「事例そのもの」だと

* 職種が異なるから、参考にならない

* 業種が違うから、役立たない

--という声が出てくる

だが、「定石・発想・原理・原則」を共有化すれば、

◎異なる職種・業種

◎違う職場にも応用・活用できる

「業種&職種」や「会社&職場」を超えて、
他者の改善を「自分の仕事の改善」に活用できる

参考資料

テキスト（基礎・応用・上級）&「手っとり早い改善ノウハウ」

講師自币への質問&相談 = hr-touzawa@nifty.com

ホームページ： <https://kaizen-touzawa.jimdofree.com/>

【検索】 → 【かいぜん touzawa】

事例 + 定石

改善事例教材

改善事例に定石を記入すると

この問題はこうすれば解決

この場合はこのように改善

①問題に直面したら、
マズ、「問題」を裏返す
「困った」→「困らナイ化」
「危ない」→「危なくナイ化」



②次に

「原因」を裏返す
「似ている・類似酷似」→「似ナイ化」
「ごちゃごちゃ」→「すっきり化」

③「原因」を裏返すには
「〇〇化」や「〇〇活用」という「定石」を活用

それによって、「改善の構造」が理解される

改善 = 問題の裏返し

対策 = 原因の裏返し

とりあえず **試**しに

やめてみる

とりあえず **試**しに

やってみる

仮説 → 検証

手っとり早い

改善実施ノウハウ

いつまでも

検討します = **考**えてみます

---ではなく、

とりあえず、

検証します = **や**ってみます

と言ってみる。

大変 (大きく変える) は慎重に、計画的に。だが、
小変 (小さく変える) は、やり直しも可能。ゆえに、
気楽に、手軽に、手っとり早く、やってみる。

改善活動の最大メリット

手っとり早く軽快な

フットワーク

大変なことはやり損なうと**大変**

ゆえに、致命的・重要事項は、

慎重に、計画的に取り組むべき

小変はやり損なっても**大丈夫**

小変はやり直しできる

とりあえず**や**ってみる

試しに**や**ってみる

やってダメなら、また改善

それでもダメなら、また改善

その「繰り返し」が「より良い仕事」となる

その「積み重ね」が「改善能力」となる

改善は軽快**フットワーク**を鍛える

日常的 **OJT = 実地訓練**